

October 30, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル、4日続落 ECBは次回会合での追加緩和を強く示唆

29日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは4日続落。終値は1.1674ドルと前営業日NY終値(1.1746ドル)と比べて0.0072ドル程度のユーロ安水準だった。欧州中央銀行(ECB)はこの日開いた定例理事会で金融緩和政策の現状維持を決定。ラガルド総裁は理事会後の記者会見で「回復の勢いは予想よりも早く失速」「短期的な見通しは明らかに悪化」と述べたほか、「12月の理事会ではあらゆる手段を検討」「12月に行動するという事にほぼ疑いはない」と語り、次回会合での追加緩和を強く示唆した。これを受けてユーロを売る動きが加速し、一時1.1650ドルと9月28日以来約1カ月ぶりの安値を付けた。市場では「月末を控えたロンドン16時(日本時間1時)のフィクシングに絡んだドル買いのフローが入った」との指摘もあった。欧州では新型コロナウイルス感染が再拡大し、ドイツやフランスが行動制限を再強化している。域内景気の先行きを懸念したユーロ売りも出やすかった。

ドル円は3営業日ぶりに反発。終値は104.61円と前営業日NY終値(104.32円)と比べて29銭程度のドル高水準だった。欧州市場では欧州株や時間外のダウ先物の下落を受けてリスク回避目的の円買い・ドル売りが先行し、一時104.03円と9月21日以来の安値を付けた。ただ、同日の安値104.00円がサポートとして意識されると買い戻しが優勢に。7-9月期米国内総生産(GDP)速報値が前期比年率33.1%増と予想の31.0%増を上回り、統計を開始した1947年以来最大の伸びを記録したこともドル買いを誘った。市場では「104.00円付近には本邦長期資金の買いやオプション絡みの買いが観測されている」「104.00円の下抜けに失敗したことでショートカバーが優勢となった」との声が聞かれた。

ラガルドECB総裁の会見後に対ユーロ中心にドル高が進むと円に対してもドル買いが活発化。米10年債利回りの上昇も相場の支援材料となり、アジア時間の高値104.50円を上抜けて一時104.73円まで上値を伸ばした。ユーロ円は4日続落。終値は122.12円と前営業日NY終値(122.54円)と比べて42銭程度のユーロ安水準。ユーロ圏景気の先行きを懸念したユーロ売りが出たほか、ECBによる追加緩和観測を背景にユーロ売りが広がり、23時前に一時121.90円と7月16日以来約3カ月半ぶりの安値を付けた。ただ、売り一巡後は122.00円を挟んだもみ合いに終始した。ドル円とユーロドルの値動きの影響を同時に受けたため、相場は方向感がなくなった。

【本日の東京為替見通し】欧州通貨の軟調トレンドは変わらず、月末要因で神経質な動きに

本日の為替市場も欧州通貨中心の値動きになるだろう。ドル円に関しては、リスクオフのドル買い・円買いが交錯していることでレンジを抜け出すことが難しい。その中で、本日は月末ということもあり、日中の大きなフローで方向感なく動きそうだ。東京時間でも月末5・10日(ゴト一日)ということもあり、東京仲値にかけても神経質な値動きになると予想する。またロンドンフィックスではここ最近ドル買い・円売りが多かったが、昨日の値動きを見ているとここ最近のトレンド通りになるかは不明だ。

欧州通貨は軟調トレンドが継続されるか。欧州各国の感染第2波が数万単位(独1万8千、仏4万7千、伊2万6千、西2万3千、英2万3千)で急増している。今後のロックダウンの経済的影響やその影響に対応するための欧州中銀の動きを考えると、欧州通貨がブルトレンドに戻るには時間を要しそうだ。ただし、上述しているが本日は月末ということで、ロンドンフィックスには要警戒となる。昨日の値動きを見ると欧州通貨はフィックスでは売りが優勢だった。しかしながら、この何か月かの月末は買いが優勢になることが多かったことで本日はより神経質になりそうだ。

米大統領選挙に関しても注目を怠らないようにしたい。本日は両候補とも激戦州の1つフロリダ州で遊説活動を行っている。トランプ米大統領は昨日の米GDPの好結果をアピールしているが、大統領としては絶対に勝たなければならない州だ。現時点の世論調査ではバイデン候補はフロリダ州を落とした場合でも、過半数の270は獲得できる予想にはなっている。ただし選挙人が29人と多いため、今回の遊説でもバイデン氏は「フロリダで勝てば終わり(勝利決定)」と述べるなど力を入れている。なお、すでに8009万票(郵便投票5304万、事前投票2704万)がすでに投票されている。

経済指標では本邦から複数の指標(失業率、鉱工業生産ほか)が発表されるが、市場の注目度は低い。また欧州圏から7-9月期の国内総生産(GDP)が発表される。本来ならば市場の注目度は高いが、欧州のロックダウンが10-12月期に再開されていることで、7-9月期の結果では市場も反応しにくいかもしれない。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 10月東京都都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合予想：前年比▲0.5%）
- 08:30 ◎ 9月完全失業率（予想：3.1%）
- 08:30 ◎ 9月有効求人倍率（予想：1.04倍）
- 08:50 ◎ 9月鉱工業生産速報（予想：前月比3.2%／前年比▲9.7%）
- 14:00 ◇ 9月新設住宅着工戸数（予想：前年比▲8.6%）
- 19:00 ◇ 外国為替平衡操作の実施状況（介入実績）

<海外>

- 09:30 ◎ 7-9月期豪卸売物価指数（PPI）
- 15:30 ◎ 7-9月期仏国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比15.4%）
- 16:00 ◇ 9月トルコ貿易収支（予想：49.0億ドルの赤字）
- 16:00 ◎ 9月独小売売上高指数（予想：前月比▲0.8%／前年比6.6%）
- 16:00 ◇ 10月英ネーションワイド住宅価格指数（予想：前月比0.4%）
- 16:30 ◇ 9月スイス小売売上高
- 16:45 ◇ 10月仏CPI速報値（予想：前月比横ばい／前年比0.1%）
- 16:45 ◇ 9月仏消費支出（予想：前月比▲1.0%）
- 17:00 ◇ 10月スイスKOF景気先行指数（予想：107.0）
- 17:30 ◎ 7-9月期香港GDP速報値（予想：前期比0.7%／前年同期比▲5.6%）
- 18:00 ☆ 7-9月期独GDP速報値（季節調整済、予想：前期比7.3%／前年同期比▲5.3%）
- 18:00 ☆ 7-9月期独GDP速報値（季節調整前、予想：前年同期比▲5.2%）
- 18:00 ◇ 10月ノルウェー失業率（予想：3.5%）
- 18:00 ◎ メルシュ欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 19:00 ◎ 9月ユーロ圏失業率（予想：8.3%）
- 19:00 ☆ 7-9月期ユーロ圏GDP速報値（予想：前期比9.4%／前年比▲7.0%）
- 19:00 ☆ 10月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比▲0.3%）
- 19:00 ☆ 10月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比0.2%）
- 21:00 ◎ デギンドス ECB 副総裁、講演
- 21:00 ◎ 9月南アフリカ貿易収支（予想：300億ランドの黒字）
- 21:00 ◎ 7-9月期メキシコGDP速報値（予想：前期比11.9%／前年比▲8.9%）
- 21:30 ☆ 8月カナダGDP（予想：前月比0.9%／前年比▲4.1%）
- 21:30 ◇ 9月カナダ鉱工業製品価格（予想：前月比0.1%）
- 21:30 ◇ 9月カナダ原料価格指数（予想：前月比0.3%）
- 21:30 ◎ 9月米個人消費支出（PCE、予想：前月比1.0%）
- ◎ 9月米個人所得（予想：前月比0.4%）
- ☆ 9月米PCEデフレーター（予想：前年比1.5%）
- ☆ 9月米PCEコアデフレーター（予想：前月比0.2%／前年比1.7%）
- 21:30 ☆ 7-9月期米雇用コスト指数（予想：前期比0.5%）
- 22:45 ◎ 10月米シカゴ購買部協会景気指数（予想：58.0）
- 23:00 ◎ 10月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、確報値、予想：81.2）
- 23:30 ◎ バイトマン独連銀総裁、講演
- インド（イスラム教モハメッド生誕日）、休場

11月1日

○米国が冬時間に移行

2日

○06:45 ◎ 9月ニュージーランド(NZ)住宅建設許可件数

○09:30 ◎ 9月豪住宅建設許可件数

○10:45 ◎ 10月Caixin中国製造業購買担当者景気指数(PMI)

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

29日 12:15 日銀声明

「当面は新型コロナの影響を注視、必要なら躊躇なく追加緩和」
「片岡委員、長短金利引き下げで緩和強化が望ましいとして反対」

29日 15:35 黒田日銀総裁

「先行きの景気は改善基調をたどるが、ペースは穏やかなものになる」
「消費者物価指数の前年比は当面マイナス圏で推移するとみられる」
「経済・物価は感染症の影響を中心に下振れリスクの方が大きい」
「新型コロナの影響を注視し、必要なら躊躇なく追加緩和」

29日 22:36 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「回復の勢いは予想よりも早く失速」
「短期的な見通しは明らかに悪化」
「為替レートを含むすべての情報を評価する」
「新型コロナ危機収束までプログラム維持をコミット」
「データは第4四半期の活動が減速することを示唆」
「インフレは2021年初頭までマイナス」
「全員が行動を起こす必要性で一致」
「12月の理事会ではあらゆる手段を検討する」
「委員会は政策手段の微修正で作業している」
「本日の会合で政策手段の変更は全く議論しなかった」
「デフレリスクがあるとは全く思わない」
「ECBが12月に行動するという事にほぼ疑いはない」

29日 22:44 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「経済対策巡る協議において、ペロシ米下院議長(米民主党)が主要な課題で妥協するとは思わない」

29日 23:26 ゲオルギエバ国際通貨基金(IMF)専務理事

「英GDPは2020年が10.4%減、21年が5.7%増と予想」
「英国には継続的な政策支援が不可欠」
「BOE(イングランド銀行)は緩和を維持し、債券購入拡大の必要」
「マイナス金利のような手段は最も効果的な時期に導入することが可能」
「英国は下振れリスクに直面」

30日 01:12 トランプ米大統領

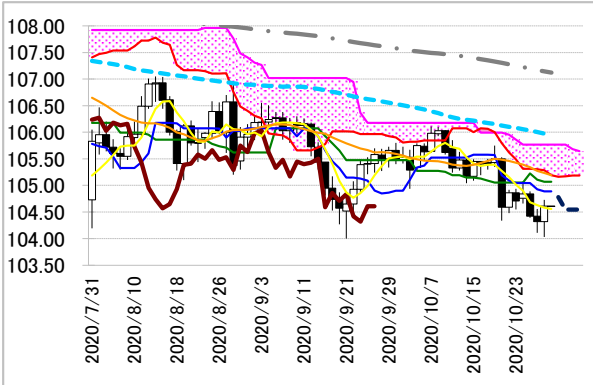
「航空業界への支援は続ける」
「ペロシ案よりも大規模な追加対策を望む」

30日 01:30 ビルロウドガロー仏中銀総裁

「コロナ第2波は仏GDPの更なる低下につながる」
「第4四半期の成長は上半期ほど厳しい結果とならないことを期待する」
「経済再建は環境により優しい成長への移行を加速するだろう」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

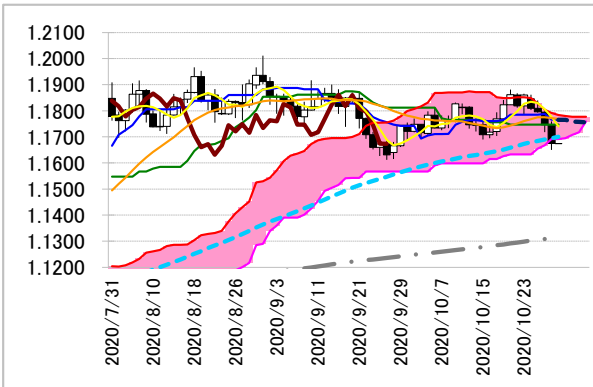


<ドル円=W ボトム形成の期待は高まりにくい>

下影陽線引け。一時 104.03 円と、9 月 21 日安値 104.00 円の突破をうかがう様相となった。依然として安値圏にあり、目先のすう勢を示す 5 日移動平均線を上回った現水準で伸び悩む可能性もある。

104.56 円前後で推移する 5 日線を越えて推移できても、104.89 円に位置する一目均衡表・転換線付近からの売り圧力をこなさきれないだろう。下げ渋れば 104 円付近を底にしたダブルボトムによる反転・上昇パターン形成へトライすることになるが、同フォーメーション完成までにこなさなければならぬ抵抗が上値に多い。

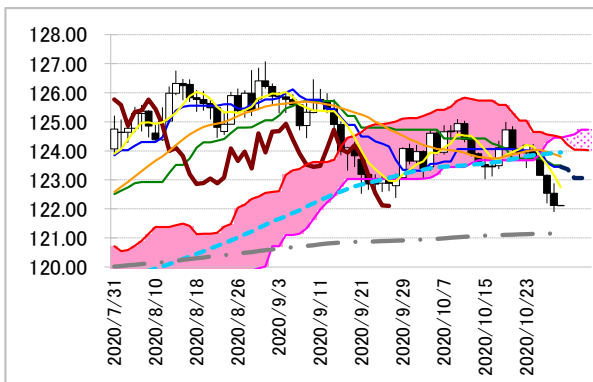
レジスタンス 2	105.77(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	105.07(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	104.61
サポート 1	104.03(10/29 安値)



<ユーロドル=雲を下抜け>

下影陰線引け。9 月 28 日以来、1 カ月ぶりの安値 1.1650 ドルまで売られた。一目均衡表・雲の下限 1.1691 ドルを回復できず NY を引けた。雲の中への反発は難しく見える。今後の雲下限の切り上がりに沿って戻すことができて、低下を続ける見込みの転換線が上値を押さえそう。

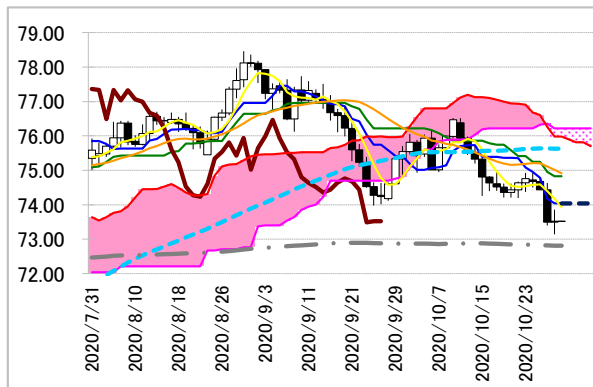
レジスタンス 1	1.1718(10/28 安値)
前日終値	1.1674
サポート 1	1.1612(9/25 安値)



<ユーロ円=転換線は売り示唆の状態で推移を続けそう>

陰線引け。122 円の大台を割り込み 7 月 16 日以来、3 カ月半ぶりの安値 121.90 円まで下落幅を拡大した。下値を大幅に広げたことで、底打ちの可能性を残していた一目均衡表・基準線も 123.50 円へ低下した。それ以上に低下を強めた一目・転換線は、基準線を下回る売り示唆の状態当面は推移する見込み。5 日移動平均線や転換線が戻りを抑えるさえない展開が続きそう。

レジスタンス 1	122.75(5 日移動平均線)
前日終値	122.12
サポート 1	121.47(7/14 安値)



<豪ドル円=安値圏の十字線は下げ渋り示唆か>

極小陽線引け。一時 73.14 円と、6 月 22 日以来の 73 円割れを意識させる動きだったが、気迷い示唆の十字線を形成している。まだ緩やかな低下傾向の 200 日移動平均線へ追従した下押しリスクは残存。一方、一目・転換線は 74.04 円へ低下したところで横ばいとなる見込みがあり、すう勢を示す 5 日線も現在の相場水準 73.50 円台での底打ちも想定できる。下落の勢いを緩め、戻りを試す可能性が出てきた。

レジスタンス 1	74.04(一目均衡表・転換線)
前日終値	73.52
サポート 1	73.14(10/29 安値)

